

## 水都に関する歴史と環境の視点からの比較研究

著者	陣内 秀信
ページ	1-6
発行年	2016-06
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/13346">http://hdl.handle.net/10114/13346</a>

平成 2 8 年 6 月 2 7 日現在

機関番号：3 2 6 7 5

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2011～2015

課題番号：2 3 2 2 6 0 1 3

研究課題名（和文）水都に関する歴史と環境の視点からの比較研究

研究課題名（英文）Comparative Study of Water City from the Viewpoints of History and Environment

研究代表者

陣内 秀信（JINNAI, Hidenobu）

法政大学・デザイン工学部・教授

研究者番号：4 0 1 3 4 4 8 1

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 105,500,000 円

研究成果の概要（和文）：世界の「水都」を比較研究し、その立地、及び都市形態の在り方から類型化を行い、時代ごとの水都形成の大きな流れを歴史的に把握できた。こうして水都の変遷を通じて、世界の都市の歴史を再解釈することが可能となった。

同時に、合理性を追求し自然を人間の意思で支配・制御・活用した西洋文明と自然と共生する姿勢を見せたアジア、日本における水都の在り方の違いを明確に把握できた。その特質を踏まえ、日本における水都再生の考え方、方法について東京を中心に示すことができた。

研究成果の概要（英文）：In the comparative study of the water cities of the world, cities were divided into different types by taking into account their location and state of urban morphology. By doing this, we were able to understand the process of historical evolution of the water cities in the world. It was through such changes to the water cities that we were able to reinterpret the history of the cities in the world.

At the same time, we were able to clearly understand the differences between the state of water cities in the west and those in Asia and Japan. The former is based on western civilization that pursues practicality and is supervised, controlled and utilized by the human will. In the latter, the cities coexist with nature. Through an understanding of these characteristics, we were able to present the ideas and methods of the regeneration of the water city in Japan, with a focus on Tokyo.

研究分野：都市史

キーワード：水都 歴史 環境 類型 政策 文化的景観 水辺空間

### 1. 研究開始当初の背景

世界の都市の多くは、海や川の水辺に立地して舟運による流通・経済の活動を背景に繁栄し、独自の風景や文化を育んだ。だが、近代には、どの国・都市・地域においても、陸の発想による国土と都市の開発を押し進め、川や掘割、海岸線などの水辺を犠牲にして産業化を進め、経済成長を遂げてきた。

しかし、時代の価値観が変わり、現在、そうした水都の価値を歴史と環境の観点から深く掘り起こし、自然のもつ豊かさを環境形成の根幹に取り戻すための基盤となる研究が社会的に強く求められている。

### 2. 研究の目的

20 世紀に負の遺産におとしめられた水都を対象とする研究の新たな枠組みを創出し、その再生を 21 世紀の都市・地域づくりの柱にすることが全体構想である。法政大学エコ地域デザイン研究所の膨大な研究成果をベースに、〈歴史〉と〈環境〉を重ね合わせ、都市史・建築史、工学・政策学の二分野を結びつける斬新なアプローチにより、世界の水都を学際的かつ総合的に明らかにすることを目的としている。

具体的には水都に関し、A) 空間構造の歴史的特質を個別・典型的に把握・解明すると同時に、B) 環境の変容を都市・建築工学的な側面と経済・産業の政策学の側面から考察し、C) 両者をクロスさせることで、21 世紀にふさわしい〈歴史〉と〈環境〉を基軸とする調査研究の方法論と研究の枠組みを新たに提示する。

### 3. 研究の方法

本研究では、日本、東・東南アジア、西ヨーロッパ、北アメリカにおける水都を主な対象とし、〈歴史〉と〈環境〉の二つを大きな研究の枠組みとしながら、空間の歴史に重きを置く都市史・建築史、ならびにエコロジーに着目する工学と政策学の二本を基軸に据え、その内容と類型について実証的に検討し叙述することを共通課題とする。そのための研究者をバランスよく組織し、同時に海外を含む協力者と深く連携しながら研究を進める。いくつか異なる分野の研究者から組織され、対象も多岐にわたるため、これまでに築いた国際的かつ学際的なネットワークを十分に活かすことが、研究計画・方法にとって最も重要となる。

### 4. 研究成果

(1) 日本、東・東南アジア、西ヨーロッパ、北アメリカを中心に、五大大陸のすべてをカバーして現地調査を行った結果、世界のどの地域でも、川沿い、海沿いなど、水の得やすい所に大半の都市が立地し、水害から守りながら、巧みに水を活用し、人々の暮らし、舟運・産業・経済活動を営んできたこと。また、そこに地形・自然条件を活かして、固有

の水辺の風景が生まれたことを検証できた。その意味で、「水都」は世界のどの地域にも存在してきたと明言できる。

(2) 世界の「水都」を比較研究し、その立地、及びそれと結びつく都市形態の在り方から類型化を試み、時代ごとの水都形成の大きな流れを歴史的に把握できた。日本の水都の特徴も、その比較のなかで明確化できた。水都の典型、港町、港湾都市の歴史の変遷を分析し、古いタイプとして、小さな入江に港を発達させた都市(地中海、日本の瀬戸内海など)、及び内部を巡る運河・水路に港機能があった「内港システム」の都市(ヴェネツィア、アムステルダム、バンコク、東京、大阪など)、世界中に見られるタイプの川沿いの港町(パリ、ロンドン、ハンブルク、上海など)、最も新しい港町のタイプとしては、湾や河口に面し棧橋、埠頭を連続的に並べ物流に特化した「外港システム」と呼べる米国の近代都市の系譜を抽出できた。こうして、港、港湾空間のタイプの変遷を通じて、都市の世界史を記述し直すことが可能になった。

(3) 東西世界の比較を通して、合理性・機械化を追求し自然・水を人間の意思で支配・制御・活用した西洋文明と、自然と共生する姿勢を見せたアジア、日本における水都の在り方の違いを明確に把握できた。パン食のための製粉に水車が必須で、かつ製紙などにも水車を必要とした西洋では、産業革命の進展とともに水力エネルギーを利用した繊維、鉄鋼などの産業がイギリス、ドイツに発達。さらに北米に伝播して近代産業社会の水都を内陸河川沿いに形成した実態を解明した。閘門を活用する河川、運河の舟運システムがそれを支えたことも検証できた。一方、アジア、日本では、水は災いと恵みの両方をもたらすもので、そこから信仰心も生まれ、コミュニティの結束で減災を追求しつつ、水を生活のあらゆる局面で活用してきたこと、水と人間の間に根源的な繋がりがあることを示せた。近代西洋文明の行き詰まりが議論される現在、こうしたアジア、日本の社会が育んだ人間と水(自然)との密接な繋がり、21 世紀の世界の都市、地域の環境を再生する上で、極めて重要なベースとなるはずである。なお、水都学にとって災害の問題は避けて通れない極めて重要な論点であり、三陸の被災地の漁村群を対象に、雄勝・女川・牡鹿の 67 浜の調査を重ねて、集落空間の特質を探り、津波に対する減災への知恵を解明した。また、水害に苦しんできた東京の下町低地の在り方を歴史的に考察し、今後への考え方を提示した。

(4) 本研究におけるアジアの水都の比重は大きく、中国蘇州や周辺の水郷鎮、タイのアユタヤやロブリー、台湾の北斗、インドのバラナシなどの川港型、中国の上海やタイのバンコク、ベトナムのサイゴンやバックリウなど、河口デルタや大きな湾の内面に立地する港型、さらには、マカオや香港、ア

モイなどの海港型、東南アジアに多く点在するタイのシーラーチャーのような水上集落といった様々なタイプの水都の特質を理解した上で、19世紀に植民地化した後、西洋の近代思想がいかにアジアの水都を変容させたかを解説した。この成果は今後のアジアの水都再生を考える上での重要なベースとなるはずである。

(5) 今日の課題である水都再生について、世界各地の実態を現地調査し、比較考察した。1970年代に欧米で始まったウォーターフロント再生の事業は荒廃した古い港周辺で行われ、人気の観光・文化スポットとなり日本にも影響を与えたが、1990年代以後の世界の動きは大きく性格を変え、水辺に大きく広がる港湾・産業ゾーンを対象に、新たな時代に見合った複合機能をもつ都市空間そのものを創出する方向で価値ある成果をあげてきたことを検証した。それに対し、日本の都市での90年代以後の水辺開発が民間ディベロッパー任せで公共性、総合性に欠けている点を浮き彫りにし、この失われた25年を、日本的な特徴を活かしながらいかに取り戻すかという問題提起を行った。

(6) 本研究の開始直前の平成23年3月11日に、東日本大震災の津波で三陸海岸の港町、漁師町が壊滅的な被害を受けたことをふまえ、水都に関する本研究の方向性、研究対象の選び方の判断基準などの見直しを迫られた。国内外の著名な水都のみか、小さな都市、町も対象に加え、同時に、都市や町を周辺に広がる「地域」のネットワークのなかで捉える新たな視点を導入した。それはまさに近年、都市史研究、都市計画・都市づくりで重要視され始めた後背地の地域（伊語で「テリトリー」という）との相互の有機的関係、ネットワークの在り方に注目する考え方と一致するものであり、「水都学」でもその視点が重要であることを、国内外の幾つもの具体的事例を通じて明らかにできた。

(7) 我が国の水都のうち、特に東京の研究に重点を置き、この都市が実に多様な水の機能・役割をもち、多彩な水都の文化を生み出したことを歴史的に明らかにした。同時に、都心・下町のみならず、山の手、武蔵野・多摩の田園地帯も含め、東京の都市全体が、多様な地形、及びそれと結び付いた多種の水資源に恵まれ、変化に富んだ水の風景をもつ、「水都」の性格を色濃く示すことが明らかになった。本研究開始時に想定した、主に都心・下町が対象となる「水都」の概念は、大きく乗り越えられつつある。また、本研究の東京における重要課題の一つ、外濠をめぐる研究が発展し、都心にある複数の他大学の専門家との共同体制が生まれ、東京の「水循環都市」としての再評価とその再生への具体的な提案をまとめることができた。こうして、テリトリーにまで視野を広げ、エコロジーと歴史の双方から水都の在り方の根本を問い直す発想は、これまで国内外になかった考

え方で、本研究が東京を舞台に生み出した世界に発信できる重要な研究成果だと考えられる。

(8) 本研究の研究分担者、伊藤毅氏（東京大学教授）を研究代表者とし、陣内が研究分担者として参加する「わが国における都市史学の確立と展開に向けての基盤的研究」（平成25年～29年度）との研究交流を密に行い、成果をあげた。2013年度に創立された都市史学会を舞台とする研究交流に加え、本研究の成果の一つ、『水都学』の特集企画に伊藤氏の協力を得る一方、伊藤研究室による北イタリア・アーゾロ市の現地調査に関し陣内がアドバイザーとして協力してきた。また伊藤科研主催の「日本イタリア国際シンポジウム」（2015年2月実施）に協力し、日伊学術交流に貢献した。こうして、都市史研究の共通する目的をもつ二つの基盤研究（S）相互の間で、ダイナミックな交流を実現できたことの意義は大きい。

(9) 水都研究の成果を発表する方法として法政大学出版局から叢書（全5巻）を刊行するにあたり『水都学』と命名し、この言葉を積極的に使ってきた。国内外でこのネーミング、コンセプトに関し高い評価を得ることができ、2015年1月にはヴェネツィアでこうした考え方に基づく東京・ヴェネツィアの水都としての比較を掲げる国際シンポジウムが開催され、陣内が「水都学とは何か」と題する基調講演を行った。一方、2015年12月に法政大学で開催した都市史学会大会では「水都史」をテーマとするシンポジウムを行い、陣内が基調講演を行った。全国の自治体の間でも、東京都日野市、滋賀県彦根市など、「水都」を掲げて町づくりに取り組む所が増えている。こうして水都研究、水都学は、学界及び社会全体の中で広く受け入れられ、新たな価値観による都市、地域づくりのための理念、実践的な方法の両面で大きなインパクトを与えつつある。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計52件）

水田恒樹、陣内秀信「ローウェルの都市空間に関する分析と考察 - 米国北東部の水力工業都市の空間構成に関する事例研究 - その1」『日本建築学会計画理論集』第80巻715号、2015年、pp.2157-2165、査読有

樋渡彩、真島嵩啓、陣内秀信「イタリア北部の小都市に見られる農村的性格について - フォンツァーゾとアルシエを事例として」『早稲田大学イタリア研究所研究紀要』第4号、2015年、pp.25-54、査読有

Hidenobu JINNAI, "Case Study Reading the City of Tokyo", *Reconnecting the City-The historic Urban Landscape Approach and the Future of Urban*

*Heritage*, Edited by F. Bandarin, Ron van Oers, Wiley Blackwell, Oxford, 2015 年, pp.261-268, 査読無

Hideobu JINNAI, "Reading the city of Tokyo", *Reconnecting the City: The Historic Urban Landscape Approach and the Future of Urban Heritage*, 2015 年, pp.261-268, 査読無

伊藤毅「第1節相川の都市形成と変遷 1. 上相川の形成と近世相川」『佐渡相川文化的景観調査報告書』2015 年, pp.132-136, 査読無

岡本哲志「持続性とは、変化とは 三陸での小さな浜での体験を経て」『季刊 iichiko』No.125, 2015 年, pp.70-77, 査読無

佐藤直哉, 川久保 俊, 出口清孝「階段教室における温熱環境が学生の心理と集中力に及ぼす影響 - 環境実測・数値流体解析・質問紙調査による時空間分析 - 」『日本建築学会環境系論文集』Vol.80, No.710, 2015 年, pp.339-349, 査読有

鈴木悠太, 川久保 俊, 出口清孝「環境配慮建築物の性能とその地域特性に関する研究 - 横浜市の集合住宅における CASBEE 届出データの地理的空間分析」『日本建築学会環境系論文集』Vol.80, No.710, 2015 年, pp.359-369, 査読有

陣内秀信「東京の水都としての形成史」『運輸政策研究』Vol.16, No.4, 2014 年, pp.49-52, 査読無

陣内秀信「ユニークな風景をもつ水都東京」『公営企業』第46巻第5号, 通巻545号, 2014 年, pp.14-24, 査読無

陣内秀信「東京ベイエリアの開発を基層から考える」『運輸と経済』第74巻第8号, 運輸調査局, 2014 年, pp.71-78, 査読無

陣内秀信「我が国の歴史的資産と文化的景観をどう受け継ぐのか」『2014 年度日本建築学会大会(近畿)農村計画部門パネルディスカッション資料集 文化的景観のまもりかた』日本建築学会, 2014 年, pp.17-18, 査読無,

陣内秀信「東京に秘められた水都としての可能性」『環』vol.59, 2014 年, pp.192-197, 査読無

伊藤毅「古地図」『建築雑誌』2014 年, pp.28-29, 査読無

伊藤毅「近世都市の成立」『岩波講座日本歴史 近世1』第10巻, 2014 年, pp.239-276, 査読有

岡本哲志「鳥の目から見た江戸の都市空間の仕組みを残す 21 世紀初頭のトーキョー」『都市計画』Vol.63 No.1, 2014 年, pp.16-21, 査読無

岡本哲志「日本橋とは、いかなる場所か」『季刊 iichiko』No.124, 2014 年, pp.6-127, 査読無

外村剛久, 宮下清栄「景観生態学手法によ

る中分解衛星画像を用いた水と緑の景観パターンの相違がエコロジカルネットワークに与える影響 キツツキ科の小型種をキーストーン種とした 5 都市の比較」『環境情報科学学術研究論文集』28 巻, 2014 年, pp.77-82, 査読有

外村剛久, 宮下清栄「CVM によるエコツアーにおける地域資源保全のための負担金の検討とその影響要因に関する研究 - 埼玉県飯能市を対象として - 」『都市計画論文集』Vol.49, No.3, 2014 年, pp.237-242, 査読有

陣内秀信「水辺の復権と「水の都市」東京の可能性 - 今こそグランドデザインを」『都市問題』第104巻, 第6号, 2013 年, pp.27-33, 査読無

②① 宮下清栄, 外村剛久, 塚本祐樹「中心市街地活性化基本計画における観光関連目標指標及び計画事業の達成度に関する研究」『都市計画論文集』Vol.48 No.3, 2013 年, pp.987-992, 査読有

②② 陣内秀信「都市を読むことと地域の原風景」『日本建築学会総合論文誌』No.10, 2012 年, pp.7-10, 査読無

②③ Hideobu JINNAI, "Strategia di analisi dell' eredità storica urbana a Tokyo", *Prol: Quaderni d' arte e di epistemologia*, Sassari, 2012 年, pp.266-270, 査読無

②④ 陣内秀信「イタリア海洋都市とイスラム世界」『學士會会報』No.895, 2012 年, pp.9-13, 査読無

②⑤ 陣内秀信「隅田川ルネサンス - 母なる川(隅田川)よ よみがえれ - 」『都政研究』527 号, 2012 年, pp.4-9, 査読無

②⑥ Takeshi ITO, "Spatial History of Mountainous Territory in Japan", *Proceedings of International Symposium Space, Culture, and Regeneration of Cities in History From the Viewpoint of International Comparison of Territory and Infrastructure*, No.1, 2012 年, pp.68-70, 査読無

②⑦ 高村雅彦「中国民居を巡る」『東方』第379号, 2012 年, pp.12-15, 査読無

②⑧ 高村雅彦「アジアの水辺デザイン その再生の歴史的意味を探る」『バイオシティ』2012 年, pp.25-33, 査読無

②⑨ 外村剛久, 宮下清栄「観光統計を用いた都市の類型化による中心市街地分析と中心市街地活性化基本計画の連携について」『都市計画論文集』Vol.47 No.3, 2012 年, pp.415-420, 査読有

〔学会発表〕(計 107 件)

伊藤毅「主題解説」日伊国際シンポジウム「中近世ヴェネツィアの領域史」, 2016 年 2 月 20 日~21 日, 東京大学(東京都文京区)

陣内秀信「水都史から見たヴェネツィアと東京の比較論」2015 年度都市史学会大

会シンポジウム「水都史」,2015年12月12日~13日,法政大学(東京都新宿区)  
Takeshi ITO, “Urban and Architectural History in Practical Context: Towards Territorial History”(Keynote Speech), East Asian Architectural Culture International Conference (EAAC 2015年) “Gwangju: History in Practice and Practice in History during 21st Century”, Asia Cultural Complex, 2015年11月10日~14日,光州広域市(韓国)  
陣内秀信「水都東京の再評価とその再生への戦略」国際シンポジウム「水と歴史都市」,2015年10月23日,水原市(韓国)  
高村雅彦「城市史,建築史的職責-歴史小城镇的继承和发展」中国首届伝統村落保護利用国際高層検討会,中国共産党建徳市委員会・建徳市人民政府,2015年10月17日,浙江省建徳市(中国)  
Hidenobu JINNAI, “Urban Regeneration of Tokyo as a Water City”, International Symposium “Cities on Water”, XV International Biennale of Architecture of Buenos Aires, 2015年9月10日, Buenos Aires (República Argentina)  
陣内秀信「水都江戸から水都東京へ」第二回水循環都市東京シンポジウム,2015年1月22日,法政大学(東京都新宿区)  
Hidenobu JINNAI, “Proposing the Suitogaku: towards a comparative studies of cities on water”, “Consider the redevelopment of Tokyo Bay Area from the basics”, International Conference <Fragile and resilient cities on water: Perspectives from Venice and Tokyo>, 2015年1月15日~16日, Venezia (Repubblica Italiana)  
Hidenobu JINNAI, Aya HIWATASHI, “Venezia e la terraferma”, XIV SETTIMANA DELLA LINGUA ITALIANA NEL MONDO, SCRIVERE LA NUOVA EUROPA, 2014年11月16日, イタリア文化会館(東京都千代田区)  
陣内秀信「水の側から見た東京の都市空間の変遷と近代建築」,武庫川女子大学講演会,2014年11月15日,日本工業倶楽部(東京都千代田区)  
陣内秀信「地中海世界の信仰と水」国際シンポジウム「「水都学」の方法を探る」,2014年10月4日~5日,法政大学(東京都新宿区)  
陣内秀信「歴史をふまえた水都の再生と創造 - 欧米都市と東京を比較して - 」,第22回UIFA JAPON 総会記念講演会,2014年6月28日,法政大学(東京都新宿区)  
出口清孝「フランスの気候マップとヴァナキュラー」,日本民俗建築学会大会,2014年5月17日,宮崎市民プラザ(宮

崎県宮崎市)

伊藤毅,「由「地-域(terri-torio)」観点探討建築・聚落・都市等地域之全貌(基調講演)」,台湾建築史論壇,2014年5月3日,台北(台湾)

Hidenobu JINNAI, “Struttura urbana e territoriale della Costiera amalfitana”, Convegno Internazionale dell'interscambio culturale, Le culture artigianali di Amalfi e Mino, le Città dell'acqua: paesaggi, strutture e lavorazioni comparate della carta a mano, 2013年12月22日, Amalfi (Repubblica Italiana)

陣内秀信「水都・東京と舟運観光」,平成25年度東京都舟運フォーラム,2013年12月16日,ワテラスコモン(東京都千代田区)

陣内秀信「東京の水都としての都市形成」,運輸政策研究所第34回研究報告会,2013年11月26日,海運クラブ(東京都千代田区)

Takeshi ITO, “Prospectus of the Establishment of Society of Urban and Territorial History (SUTH)”, Bilateral Seminar Between France and Japan, Espace, Statuts et Institutions: Perspectives Franco-Japonaises en Histoire Urbaine, 2013年11月22日, Paris (French Republic)

陣内秀信「東京都心の水辺と外濠」,日本都市計画学会,2013年11月8日,法政大学(東京都新宿区)

Hidenobu JINNAI, “Val d'Orcia : il paesaggio culturale come antropoligoa spaziale”, Convegno Internazionale di Studi, 2013年8月12日, Val d'Orcia (Repubblica Italiana)

②① 陣内秀信「祝祭性豊かな歴史的都市空間」,YCC スクール・シンポジウム:ヴェネツィアに学ぶ都市の思想と文化の仕掛け,2013年3月16日,ヨコハマ創造都市センター(神奈川県横浜市)

②② Hidenobu JINNAI, “Evolution of the Method for Urban and Territorial Studies based on History and Ecology”, 国際シンポジウム Space, Culture, and Regeneration of Cities in History (歴史都市の空間・文化・持続再生), 2012年12月3日,東京大学(東京都文京区)

②③ Hidenobu JINNAI, “Proposte di nuova navigabilità dei canali di Tokyo”, 国際シンポジウム Dai Navigli a Expo: Le vie di acqua, 2012年11月28日, Milano (Repubblica Italiana)

②④ 陣内秀信「ヴェネツィア - 水との戦いの歴史」,比較文明学会第30回学術大会シンポジウム「みやこと災害の文明論」,2012年11月17日,稲盛財団記念

- 館（京都府京都市）
- ②⑤ Hideobu JINNAI, “Proposte di studio comparato sulle città d'acqua fra Mediterraneo e Mare di Seto”, Convegno Internazionale di Studi, Città e Culture dell'acqua al tempo delle Repubbliche Marinare, Centro di cultura e storia amalfitana, 2012 年 6 月 2 日～3 日, Amalfi (Repubblica Italiana)
- ②⑥ Hideobu JINNAI, “Urban Regeneration of Tokyo as a Water City”, 国際シンポジウム “Riverscaping”, 2012 年 4 月 21 日, Amherst (United States of America)
- ②⑦ 石神隆「日本と中国を結ぶグリーンマネジメントの進化」, 国際経営文化学会, 2011 年 12 月 17 日, 千葉大学(千葉県千葉市)

〔図書〕(計 36 件)

法政大学デザイン工学部建築学科・陣内研究室編『米国北東部の水都』法政大学エコ地域デザイン研究所, 2016 年, 283 頁

伊藤毅『中近世ヴェネトの領域史 Territorial History of Veneto during the Medieval and Periods』東京大学大学院工学系研究科建築学専攻伊藤研究室, 2016 年, 123 頁

陣内秀信・高村雅彦編『水都学』法政大学出版局, 2016 年, 320 頁

陣内秀信『世界の水辺都市を巡る - ヨーロッパ・アジア・そして日本』弦書房, 2016 年, 65 頁

陣内秀信『イタリア都市の空間人類学』弦書房, 2015 年, 446 頁

陣内秀信・高村雅彦編『水都学』法政大学出版局, 2015 年, 262 頁

陣内秀信・高村雅彦編『水都学』法政大学出版局, 2015 年, 278 頁

石神隆『水都ブリストル 輝き続けるイギリス栄光の港町』法政大学出版局, 2014 年, 206 頁

陣内秀信・高村雅彦編『水都学』法政大学出版局, 2014 年, 266 頁

河村哲二・陣内秀信・仁科伸子編著『持続可能な未来の探究:「3.11」を超えて』御茶の水書房, 2014 年, 279 頁

陣内秀信・樋渡彩『チッタ・ユニカ-文化を仕掛ける都市ヴェネツィアに学ぶ』鹿島出版会, 2014 年, pp.43-66

陣内秀信・石神隆監修『北ヨーロッパの水都研究』法政大学エコ地域デザイン研究所, 2014 年, 232 頁

陣内秀信+法政大学陣内研究室編『アンダルシアの都市と田園』鹿島出版会, 2013 年, 371 頁

陣内秀信・高村雅彦編『水都学』法政大学出版局, 2013 年, 303 頁

陣内秀信+法政大学陣内研究室編『水の

都市 江戸・東京』講談社, 2013 年, 224 頁

高村雅彦『東アジア海域に漕ぎ出す第 3 巻 くらしがつなぐ寧波と日本』東京大学出版会, 2013 年, pp.23-42

法政大学エコ地域デザイン研究所編『外濠 - 江戸東京の水回廊』鹿島出版会, 2012 年, 178 頁

Hideobu JINNAI, *Il tempo della pietra*, Mario Adda Editore, 2012 年, pp.12-39

陣内秀信・三浦展共編著『中央線がなかったら見えてくる東京の古層』NTT 出版, 2012 年, 223 頁

河村哲二・岡本哲志・吉野馨子編著『「3.11」からの再生 - 三陸の港町・漁村の価値と可能性』御茶の水書房, 2012 年, 345 頁

- ②⑧ Hideobu JINNAI, Maria Russo, *Caratteri dell'edilizia residenziale nel contesto urbanistico dei centri marittimi mediterranei*, Centro di Cultura e Storia amalfitana, 2011 年, 200 頁

〔その他〕

ホームページ <http://suito.ws.hosei.ac.jp>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

陣内 秀信 (JINNAI, Hidenobu)  
法政大学・デザイン工学部・教授  
研究者番号: 40134481

(2) 研究分担者

伊藤 毅 (ITO, Takeshi)  
東京大学大学院・工学系研究科・教授  
研究者番号: 20168355

出口 清孝 (DEGUCHI, Kiyotaka)  
法政大学・デザイン工学部・教授  
研究者番号: 30172117

石神 隆 (ISHIGAMI, Takashi)  
法政大学・人間環境学部・教授  
研究者番号: 30297999

宮下 清栄 (MIYASHITA, Kiyoe)  
法政大学・デザイン工学部・教授  
研究者番号: 40139382

高村 雅彦 (TAKAMURA, Masahiko)  
法政大学・デザイン工学部・教授  
研究者番号: 80343614

岡本 哲志 (OKAMOTO, Satosh)  
法政大学・デザイン工学部・教授  
研究者番号: 20709349

(平成 25 年度より研究分担者)